

令和3年度 第1回学校評議員会

7月7日（水）10時00分より、5名全員の評議員出席のもと、第1回学校評議員会を開催しました。

今年度の学校評議員は、次の方々です。

- ・河野 章功 様（真駒内東町町内会 会長）
- ・菊地ひとみ 様（社会福祉法人札幌肢体不自由福祉会 施設長）
- ・北條 俊介 様（本校 PTA 会長）
- ・戸倉 聡 様（医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所 会長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）



校長より今年度の学校経営方針に関して、①経営のスタンス、②新型コロナウイルス感染症対策の徹底、③令和3年度の重点目標、④重点事項に伴う具体的な取組の内容 について説明を行いました。その後、各部主事から今年度の具体的な取組をスライドで紹介しながら説明を行いました。また、研究部長より、本校の校内実践研究の取組、副校長より本校における新型コロナウイルス感染症対策の取組について説明を行いました。

委員の皆様からは、「With コロナにおける教育活動の推進」について、次のようなご意見をいただきました。

- 町内会としても昨年から今年度にかけて、様々な取組を実施できていないのが現状ですが、今後のことを考えたときに地域ぐるみでどう真駒内養護学校の子どもたちを含めた活動を行っていきければいいのか、コロナ後を見据えながら地域でも考えていきたいと思います。
- 肢体不自由教育は一人一人に合った教育を大切にしていると思います。コロナ禍でオンラインでの教育なども進んではきていますが、肢体不自由の児童生徒には直接サポートすることがどうしても必要になります。距離をとって関わる、マスクやパーテーションを通して関わるのが、場合によっては子供たちのストレスになることもあり得ると思います。子供たちとの思いをくみ取っていくことを大切にしながら、そして直接的な関わりについても最大限の対策を行いながら大事にしていってほしいと思います。また、教育と福祉サイドとの情報交換を行いながら、今後も様々な課題に対して連携して取り組んでいけたらと思います。
- 新型コロナウイルス感染症によってこの1、2年あたりまえのことがあたりまえじゃないんだと感じることが多くなりました。子供たちがこうやって学校に通えていることに対して感謝している。コロナ禍であってもはじめからダメだ、できないとあきらめてしまうのではなく、どうしたらできるのかといった視点で考えていって取り組んでいただきたいと思います。要望になりますが、保護者や周りの人の応援が子供たちの力になるという視点から、オンラインでの行事などに保護者が参加したり、参観したりできるようお願いしたいです。また、学校では卒業後に子供たちが困らないように、子供たちに合った能力を見いだしてほしいと思います（例えば、この方はこのような能力があって、この力をこのように使えばお金に換えられるというような消費者教育の視点など）。
- 感染症はほとんどが口などからの粘膜を通して感染していくようになっています。学校生活の中での感染症対策について、医療的ケアの場面、給食指導の場面、歯磨きの場面の3つの場面では特に気をつけて取り組んでほしいと思います。
- 研究の取組については、ここ10年肢体不自由教育でも教科の取組を大事に行ってきたと思いますが、教科の系統性と併せて個別性への軸をもって子供たちの手立てや配慮を充実させながら実践に取り組んでいくことを今後も大事にしていきたいと思います。自立活動実態表の活用の中でWHOから出て

いる ICF の視点をもって、どうやったらこの活動ができるのか、この活動に参加できるのかということを意識して取り組んでいってほしいと思います。

■コロナ禍の中で、教育活動が窮屈になってはいますが、ICT による教育活動が進んできていると感じます。オンラインなど ICT による教育推進は、重点目標にある「新たな学びの文化の構築」を大いに広げ、進めていくチャンスだと捉えて進めていってほしいと思います。もう一つ真駒内養護学校が 60 年で積み上げてきた文化を失わずに大切にしていってほしいと思います。学校教育目標から各学部の目標を系統的に整理していているところは素晴らしいと思いました。

校長からは、今後一層進むであろう多様な社会の変化への対応に向けて、①学校組織全体の専門性とチーム力の向上、②関係機関や地域との連携・協力体制の一層の充実の 2 点について説明がありました。特に社会及び学校の多様化の中で子どもたちの成長を実現していくため、学校と地域にある教育資源を最大限に活用していくことの必要性について説明がありました。

また、今年度は、様々な制約がありながらも実施した体育的な行事について触れながら、コロナ後を見据え本校の子どもたちに合った「在り方」を検討していくこと、新型コロナウイルス感染症への予防対策を講じた上で、いかに子どもたちの学びの充実にむけて、教育活動を工夫していくかということについて説明がありました。

今後も、保護者、地域、学校のつながりを深め、学校教育を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

（教頭 渡 邊 憲 幸）